

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ほう ちゅう かん



イラスト
小熊真二さん

あん ちゅう めい
“忙中閑あり暗中明あり”

その 41

～白鳥～

2月27日付けの地元紙に「ハクチョウ北帰行 厳冬も少しづつ春」との記事が載っていました。米代川の河口付近で、約50羽の白鳥の姿が見られるとのこと。

今冬は、ひときわ厳しいものがありましたので、いつにもまして、春が待ち遠しいのではないかでしょうか。

日本に飛来する白鳥は、大白鳥と小白鳥の2種だそうです。

良く観察すると、声は、優美な姿からは想像できないような野太さですし、結構性格も荒いようです。しかし、求愛ダンスといって、雌雄が水面上に立ち上がるようにして羽を寄せ合う姿はほほ笑ましいものです。

人の人生最後の詩歌や歌曲、演奏などを「白鳥の歌」といいますが、これは、白鳥は死に瀕して最も美しい歌を歌うという北欧の伝説に由来するそうです。

白鳥という一巨花を水に置く
(中村草田男)

能代市長 齊藤滋宣



2月18日、プラザ都で第135回秋田県種苗交換会能代市協賛会総会が開かれました。